

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070800293		
法人名	社会福祉法人 小諸青葉福祉会		
事業所名	グループホーム やまびこの家		
所在地	長野県小諸市大字柏木1326-1		
自己評価作成日	平成22年3月4日	評価結果市町村受理日	平成22年7月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070800293&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本2A		
訪問調査日	平成22年4月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症状態にある要介護高齢利用者に対し、少人数で馴染みのある環境の中、安全で安心できる共同生活の場を提供すると共に、介護やその他の支援によって、明るく楽しい家庭的なつろぎのある生活空間を提供する。 ・一人ひとりが安心できる家庭的な共同生活を送る。 ・家族、近隣住民、ボランティア等人が気軽に立ち寄る事ができる場所とする。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人の経営する障害者支援施設、ケアハウス、託児所との有機的な協力関係を築いている。ケアハウスで行われる催し物やクラブ活動等への参加、託児所の子供たちとの交流、法人全体の研修会や防災訓練への参加、災害時の協力体制(特に夜間体制)、看護師、栄養士、介護職員などの人的協力など、複合施設であるからこそ得られる利用者へのサービスの充実度が感じられた。事業所としては、看取りに関する指針の整備、スプリンクラーの設置等による防災への備え、月1回程度行われる行政との協力関係、センター方式を活用した介護計画に関する事業所独自の様式化など、充実した環境を整えている。居室の廊下の天井は高く、その天井には広がり爽やかさが感じられる雲と青空が描かれ、居室兼食堂の壁の色合いは赤・青等の原色を使いながらも、人の心に和やかさや安らぎを感じさせるものがあり、理事長の利用者に対する温かい思いが込められていることが感じられた。
--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について職場内に掲示をし、各自確認し、理念を共有し実践につなげている	法人の理念を踏まえて、事業所独自の理念を掲げ、「家庭的なくつろぎのある生活空間作りと地域との関係性」を年度の重点目標とし、日々のサービス提供場面で理念や目標を実践するよう取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の行事等に参加し、その場での地域の方との交流はあるが、地域行事参加は難しい。	周辺に住宅地が少なく、坂の多い場所であるので、日々の接触の難しい立地条件ではあるが、散歩途中での挨拶や野菜等のお裾分け、法人主催の文化祭への地域の方の参加、中学生等の体験学習の受け入れなど地域と親しくつきあうよう取り組んでいる。現在、運営推進会議を通じて、地域の行事への参加を模索している。同法人経営の隣接している託児所の子供たちとは常に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会において、認知症・事業所内での取り組みを知っていただくよう資料、活動時の写真等で説明した。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において職員全員が参加し、意見交換を行っている。また、緊急時の協力体制について確認を行った。	会議の開催は、21年度は1回であった。委員は地域、行政、消防団の構成になっており、全職員が参加し、会議の職員への共有化が図られている。事業所の現状についての説明は出来ている。	会議の開催回数は22年度計画では2回となっているが、2か月に1度の開催に向けて検討されることを期待します。委員に会議の中心的存在であるご家族や利用者を加えることを望みます。議題としては評価、事故や苦情の報告など事業所のありのままを伝え、事業所をより深く理解してもらえるよう取り組まれることを望みます。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回のサービス調整会議への定期的参加、佐久圏域グループホーム連絡会への参加等行い、情報交換・勉強会等通しサービスの質の向上につなげている。	月1回程度行われる市主催のサービス調整会議やグループホーム部会に参加し、行政との協力関係を築いている。市の職員が必要に応じて事業所を訪ねてくることもあり、良好な関係が出来ている。	

外部評価結果(グループホーム やまびこの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていないが、禁止の対象となる具体的な行為について正しく理解しようと努めている。	月1回行われる法人全体の職員研修会の中で、身体拘束をしないケアの学習をし、職員の共有認識化は出来ている。見守りや職員間の連携プレーを行いながら日中は玄関の鍵を掛けてなく、抑圧感のない暮らしを支援している。車椅子利用者で、ご家族の同意を得てY字型のベルトをしている方が居るが、退院直後であるので、足の筋力を強化し、車椅子歩行が出来るようになることを目的に、ずり落ち防止のため、行っていることを伺った。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修、勉強会等を通して学ぶ機会を設け防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて書面、資料等を参考に話し合い活用できるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面及び口頭で行い理解、納得してもらっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望は常に受け入れ、改善に取り組んでいる。外部者へは、運営推進委員会やサービス調整会議等で表し、運営に反映させている。	家族会を年1回開催し、ご家族の思いや意見を聞く機会とし、面会時には時間を掛けてゆっくり話をするよう努めている。家族会では家族同士で話し合う時間を設け、ご家族であるから通じ合える心の交流をしている。法人の広報誌を年1回発行しているが、22年度からは、事業所独自にご家族に向けて利用者の暮らしぶり等の近況報告の出来るたよりを3か月に1度発行する計画である。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時や職員会議において常に職員の意見・提案を聞く機会を設けている。	ミーティングや職員会議の際に職員が気軽に意見やアイデアを言えるよう取り組んでいる。目標実績確認等の個別面談もあり、職員のやりがいや向上心を引き出す工夫もしている。内外の研修の機会も多くあり、職員の事業所に向ける意見や気付きを多く持てるよう努めている。	

外部評価結果(グループホーム やまびこの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、目標実績確認表等による個別面接を定期的に行い個々の努力や実績、勤務状況の把握を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修や職場外研修への参加の機会を積極的に設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム学習会の参加、相互評価を行い質の向上に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に管理者、計画作成担当者が本人に会い現状把握をすると共に、今後の生活について話す機会を複数回設け、信頼関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に管理者、計画作成担当者が家族に会い家族の意向・要望を聞く機会を設けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの情報だけでなく、ケアマネージャー、利用されていた事業所からの書面による情報提供を含めた対応に努めている。		

外部評価結果(グループホーム やまびこの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの「生きる力」を發揮できるよう寄り添い共同作業を行う機械を多く設けられるよう努力している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡は密にし本人を支える事に努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人たちが贈り物や、面会に来てくれることで持続できている。ADL低下により馴染みの場所への外出が困難状況である。	友人が面会に来たり、贈り物があったり、ご家族の協力による墓参りをしたり、手紙等のやり取りの支援をするなど、これまでの暮らしが継続出来るよう取り組んでいる。重度化していることもあり、行きつけの場所等へ出掛けることは、なかなか出来ないのが現状である。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に相談にのり、入居者同士の関係がうまくできるよう関係調整に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方々は長期間経過しているため情報収集が困難である。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴の把握、希望・意向に添えるよう努めている。	センター方式を活用したフェースシートにより利用者の思いや意向を把握するよう努め、言葉や表情、声掛けにより「今」どんな思いでいるのか理解するよう取り組んでいる。縫物、畑仕事、ハーモニカ、歌の好きな方、テレビを見たり、新聞を読んだりなど一人ひとりの思いに寄り添い、生きる力を發揮できるよう支援している。	

外部評価結果(グループホーム やまびこの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	専用シートを用意し家族へ情報記入の依頼をし協力を得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者個々の生活リズムを理解し現状把握に努めている。アセスメントシートの活用、定期的見直しを行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的又は必要に応じ本人・家族への聞き取り話し合いを持ち、課題分析、モニタリング、ケースカンファレンス実施後、介護計画を作成している。	センター方式を活用したシートにより、利用者やご家族への聞き取りを行い、計画作成担当者が中心となり課題分析を行っている。法人の看護師や栄養士にアドバイスを頂いたり、利用者の担当者の意見を取り入れ、ケースカンファレンスを通じて介護計画を作成している。3か月に1度、事業所独自のモニタリング表により、計画の見直しを行うと共に、心身の状況の変化に応じて見直しを実施し、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。なお、モニタリング表にご家族の満足度を加えることを望みます。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・夜勤日誌・ケース記録の記入と確認により職員間で情報共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズを想定し、介護用品・備品等を準備し、状況発生時は速やかに対応できるようにしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長・民生委員へ協力依頼をしている。		

外部評価結果(グループホーム やまびこの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に主治医、緊急時の病院について話をしそれに添った対応を行っている。	利用者やご家族の希望により、多くの方は事業所の協力医療機関の医師がかかりつけ医となっている。受診等は原則としてご家族が付き添うことになっているが、職員が代行することが多い。歯科、精神科、緊急時の入院先も整っており、併設施設との医療連携体制の契約もあり、利用者やご家族から医療面での安心を得ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日1回、併設の医務課看護師による健康チェックを行っている。また、緊急時には、状況報告し指示を受け対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、家族・病院と連絡をとり、面会や電話にて情報交換や早期退院に向けての話し合いをもっている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化について、主治医・看護師等と連携をとり家族へ説明を行っている。必要に応じ、主治医・家族・職員とのカンファレンスを行っている。	看取りに関する指針があり、該当する事例が生じた時は、ご家族、医師を交えて話し合いを持って対応している。医師、看護師の協力を得られる環境を持ち、全職員の対応への理解もあるので、終末期を事業所で受け入れる基本姿勢を持っている。看取りはこれまでに2名行った。	身体的重度化への対応が今後の事業所の課題と思われる。基本的に認知度の重度化も身体的重度化も受け入れる姿勢であるので、浴室、洗面所などのハード面の改修、排泄、食事ケアなどの介護技術面でのさらなる学習を重ね、重度化に対応出来る環境を整えることを望みます。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署での救命講習を受講、職員研修において実践力を身につけている。また、緊急時マニュアルを設置している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的昼間・夜間での避難訓練を実施し、地域の協力体制を築いている。	年2回(昼・夜想定)の防災訓練を実施し、自動通報装置やスプリンクラーの設置があり、夜間は併設の2施設に3名ずつの夜勤者の協力が得られるようになっており、防災への十分な備えが出来ている。近隣住民や消防団の協力は法人全体として協力体制が築かれている。避難誘導に関しては何時でも短時間で出来るイメージトレーニングを頻度よく実施することを望みます。	

外部評価結果(グループホーム やまびこの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を常に頭に置き一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう敬語での言葉掛けを実践している。	個人情報の保護については、法人の学習会で共有すると共に、事業所内に冊子を設置し、何時でも見て再確認出来るようになっていた。個人の記録は事務所内に他者から見られないよう収納されていた。誘導の言葉がけを耳元でしたり、管理者が職員の言動のチェックをしたりして、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉使いに配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が表しやすいような日々のケア、関係づくりに努め、自己決定ができるような声かけ、働きかけに勤めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の1日の生活リズムを大切にしながら、その日の本人の体調変化・要望・希望等があれば主訴を優先できるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的散髪・毛染めの対応。またTPOにあわせた身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある献立作成・調理を行っている。後片付けは利用者と一緒にしている。	調理の下準備等は出来ないが、片付け、洗いや食器拭き等は出来る範囲で利用者と一緒にしている。焔で採れた物やお裾分けで頂いた野菜等を活用したり、季節感のある献立作りをして利用者が食事を楽しめるよう工夫している。重度化に伴い、嚥下力の低下する傾向も見られるので、献立のチェックやアドバイスを頂くなど、併設施設の栄養士との協力関係を築かれることを望みます。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	偏食にならないよう食事時の声掛けを行っている。食事量・水分量のチェックはその都度行っている。		

外部評価結果(グループホーム やまびこの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕食後に行っている。必要時昼食後も行う。個々の状況に合わせて見守り、介助を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時体応の他、その日の利用者の状況にあった支援を行なっている。	トイレを利用した排泄をケアの基本として、排泄パターンに沿ったトイレ誘導や声掛けをして排泄の自立に向けた取り組みをしている。重度化によりおむつ使用者も居るが、リハビリパンツや早めの声掛けを心掛け、常時おむつ使用により、生きる意欲や自信を失うことのないよう取り組んでいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物での工夫と看護師との連携により個々に応じた対応を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介護度重度化につき職員介助が必要な為曜日を決めて行っている。	入浴は週2回(水・土曜日)行い、一日(午前10時30分～12時)で全利用者が入浴している。入浴拒否者も居るが、声掛け、足浴、シャワー浴、清拭等に対応し、清潔感の保持に努めている。菖蒲湯やゆず湯などの季節感ある楽しみも取り入れている。	浴槽は広く、深く、段差もあり、重度化する利用者にとっては困難も多く、職員も2人対応となり、何時でも自由に利用することは出来ない。入浴を楽しむためには一人ひとりの希望に沿って何時でも入浴できる環境が望ましいので浴槽の改修を含めて検討されることを期待します。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に合わせて柔軟な対応を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りや、処方箋、看護師等により内容確認、理解している。		

外部評価結果(グループホーム やまびこの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事や手作りおやつ等提供し季節感を楽しみ気分転換を図っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者と話し合いのもと、外出場所、日程を決め皆で外出している。	坂が多いという立地条件や重度化していることもあり、日常的に散歩に出かけることは難しいが、ウッドデッキでの外気浴や気分転換、隣接託児所の子供たちとの外での交流は出来ている。桜の花見や紅葉狩り等のドライブ、食材の買い出し外出、希望を聞いての計画的な外出など五感の刺激や季節を味わうことのできる戸外に出かける機会を多く持つよう取り組んでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	個々による金銭管理困難の為、家族了承のもと総務にて金銭管理を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者個々の要望により対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間を利用し、手作り作品、季節の花を飾ったりして季節感・生活観の雰囲気作りを行っている。	居間兼食堂の壁は赤・緑・青・黄の原色であるが、法人理事長の海外での知恵を取り入れ、人の心を和らげる色合いとなっており、絵画、写真、利用者の作品等が飾られている。掃き出し窓からの採光も良く、暮らしに密着した煙も見られ、併設託児所の子供たちの様子も窺えて、穏やかで落ち着いた雰囲気が漂っていた。居間の段上がりには畳の間、炬燵、大型のテレビがあり、当たり前馴染んできた暮らしが展開されていた。迎え・送り盆、まゆ玉作り、雑祭り、正月など、これまで暮らしの中で行われてきた季節感のある風習も守っていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々合った、テーブル配置、席移動等で居場所の工夫を行っている。		

外部評価結果(グループホーム やまびこの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に説明し使い慣れた家具等搬入していただいている。また状況変化時はその都度、本人・家族との話し合いをもち居心地のよい居室の工夫を行っている。	利用者のご家族とで思い思いの部屋作りをしていた。使い慣れた家具、仏壇、ひ孫の写真、本、テレビなどがあり、ベッド、寝具も持ち込まれ、自由に配置されて居心地よく過ごせるようになっていた。掃き出し窓からは畑が見え、遠くには小諸の街並みが眺められ、隣接の託児所が近くに見られる部屋もあり、暮らしていることを味わえて、ゆったりと過ごせるようになっていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮し努力している。		